

# COVID-19感染拡大が実習に及ぼす影響と学内プログラムの実践

名古屋短期大学 保育科 実習委員会

## はじめに

2019年12月、中華人民共和国（以下、中国）湖北省武漢市で、原因が特定されない肺炎の患者が複数発生しているというニュースをその当時、筆者らは遠い国で起こっている他人事として聞いていたのではないだろうか。1年前は、世界中の人々が国を往来し、当たり前交流を深めていた。本学においても、2019年度末（2020年2月、3月）に予定されている海外研修は当然行われ、2019年度の卒業式も、2020年度の入学式もいつものように行われるものとして準備を進めていた。ところが年が明け、1月16日、武漢市から日本に帰国した神奈川県在住の30代の男性から新型コロナウイルスが検出されてその状況は一変した。新型コロナウイルスの感染下での大学の授業や実習への対応、オーストラリアで実習する学生への対応、留学する予定の学生への対応等に追われる日々が現在も続いている。

保育者として働くために必要な資格と免許の取得は必須であり、そのためには保育現場に実習に出て学ぶことは、保育者をめざす学生にとって大変重要なことであるが、2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大のためにその実習を断念し、学内プログラムへの変更を余儀なくされた。

現在、新型コロナウイルスの感染は、第三波を迎えている。ワクチン開発が進み、アメリカやヨーロッパではワクチンの接種が始まったが、日本ではもう少し先になりそうである。新型コロナウイルスの変異種が発見され、日本においても感染者が確認されている。新型コロナウイルスの収束は、まだ先のことであることが予測され、「with コロナ」は続く様相にある。

この一年新型コロナウイルスと向き合い、これまで当たり前に取り組んできた実習の事前事後指導について、振り返り考えることも多くあったのではないだろうか。そこで実習委員会として、2020年度の実習の学内プログラムの実践を記録に残し、今後の実習指導ならびに事前事後指導のあり方について再考したいと考えた。

## 1. COVID-19の感染拡大が授業と実習にもたらした影響

### (1) COVID-19の拡大と学内対応

中国湖北省武漢市において、昨年、2019年12月、原因となる病原体が特定されていない肺炎の発生が複数報告された後、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）として、新型コロナウイルスとその感染症については、その当時はわからないことが多く、世界各国で調査、対応がすすめられた。人から人への感染も一部確認され、どれぐらいの広がりになるのかもわかって

いなかった。

コロナウイルスは、コウモリ、ラクダなど、主に動物に感染するウイルスであり、時に人にも感染することがあるとされた。2012年にサウジアラビアで報告された中東呼吸器症候群 (MERS) ウイルスや、2002年から2003年にかけて中国を中心に感染が拡大した重症急性呼吸器症候群 (SARS) も、同じコロナウイルスのグループである。

日本で初めて確認された COVID-19 は、2020年1月16日、武漢市から帰国した神奈川県在住の30代の男性から発見された。厚生労働省からは、「この男性からの感染で新たな患者が出る可能性は低い」と説明され、厚生労働省は、「WHO や国立感染症研究所のリスク評価によると、現時点ではヒトからヒトに次々に感染する明らかな証拠はない。風邪やインフルエンザも多い時期であることを踏まえて、咳エチケットや手洗い等、通常の感染対策を行うことが重要だ」とコメントした。また、武漢市からの帰国・入国者については、咳や発熱等の症状がある場合には、マスクを着用するなどし、速やかに医療機関を受診するよう呼びかけていた。

中国では1月24日から春節が始まり、多くの中国人が日本国内に訪れることが予測されていた。感染が確認された男性は、1月3日に発熱があったものの、市販の解熱剤を飲んでいたために体温が下がり、検疫を通過していたという経緯もあるなか、厚生労働省では、「早い段階で患者をフォローアップする体制を早急につくりたい」とした。そうこうしている間、中国からの観光客は日本全国に訪れていた。そして、観光で「クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号」に乗船していた香港在住の男性から、船内に感染が広がりクラスターが起り、感染者712人、死者13人を出すことになった。この後、感染は止まらず、世界の国々でロックダウンなどの措置がとられた。日本においても新型インフルエンザ等対策特別措置法（以下、特措法）が改正され、「緊急事態宣言」が出され、学校は一斉休校、仕事や学校の授業はリモートという生活が2か月以上続いた。

本学においても、春季海外研修は中止、実習中であった保育実習Ⅰ（施設）は、未実習学生20名を残して中止せざるを得なくなった。新入生の宿泊セミナーは中止を決定し、4、5月は、教員も学生も慣れない遠隔授業に取り組むことになった。夏は、ウイルスが弱体するという予想の下に実習計画を立てていたが、予想は外れ7月～8月には第2波到来、11月には第3波が始まったことで、2020年度の全実習中止を決定し、学内プログラムへと切り替えることとなった。日本の出国禁止また、海外の入国禁止から、専攻科留学タイプ12期生のオーストラリア留学は延期を決定した。12期生は、2021年8月からの留学をめざして、学内の履修計画を変更し、2年生で履修する科目を履修している。COVID-19の感染拡大の勢いは止まらず、2021年度への影響は濃厚である。2021年度は、2020年に経験したことを活かした実習のプログラムを実施したいと考えている。

## (2) 免許及び資格取得への特別措置

厚生労働省からは、養成施設の運営に係る取扱いについて以下のような指示が出た（原文のまま）。

① 養成施設にあっては、新型コロナウイルス感染症の対応等により、実習中止、休講等の影響

を受けた学生と影響を受けていない学生の間、修学の差が生じることがないように配慮するとともに学生に対して十分な説明を行うこと。

- ② 養成施設にあっては、新型コロナウイルス感染症の影響により、教員の不足や施設・設備が確保できない等、十分な教育体制を整えることが困難な場合が生じることが想定される。こうした養成施設においては、できる限り速やかに十分な教育体制を整備することが望ましいが、当面の間は、非常勤教員の確保や教室の転用・兼用等により、必要最低限の教育体制を整えることとして差し支えないこと。
- ③ 養成施設にあっては、新型コロナウイルス感染症の影響により実習施設の受け入れの中止等により、実習施設の確保が困難である場合には、年度をまたいで実習を行って差し支えないこと。なお、これらの方法によってもなお実習施設の代替が困難である場合、実状を踏まえ実習に代えて演習又は学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を修得することとして差し支えないこと。

保育士資格に係る取扱いについては、以下のように指示が出た。

- ① 今般の新型コロナウイルス感染症の対応により実習中止、休講等が生じ、授業の実施期間が例年に比べて短縮された場合であっても、当該養成施設において必要な単位もしくは時間を履修し卒業した者については、従来どおり、保育士となる資格を有すると認められること。
- ② 新型コロナウイルス感染症に関連する実習中止、休講等の対応を受けた学生は、他の学生より修業が遅れることが想定される。こうした場合であっても、当該養成施設において必要な単位もしくは時間を履修し卒業した者については、従来どおり、保育士となる資格を有すると認められること。
- ③ ①及び②の取扱いは、養成施設における教育内容の縮減を認めるものではないことから、養成施設にあっては、時間割の変更、補講授業、インターネット等を活用した学修、レポート課題の実施等により必要な教育が行われるよう、特段の配慮をお願いしたいこと。

文部科学省からは、教育実習の実施にあたっての留意事項について以下のことが指示された。文部科学省からは後に、令和2年度に実施が困難となった教育実習の代替措置（教育実習特例）が出された。

令和2年度における教育実習の実施にあたっての留意事項

#### ① 教育実習の実施時期、期間、内容等の調整

- 令和2年度の教育実習については、教育委員会等と協議の上、必要に応じて実施期間を秋以降とすることも検討していただきたいこと。卒業年次の学生など教育実習を次年度に実施することができない事情のある学生を優先していただきたいこと。
- 大学設置基準において、実習は、30時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位としていることから、教育実習の授業時間数や実施期間の設定に当たっては、教育実習生を受け入れる小学校等の状況も踏まえ、弾力的に検討していただきたいこと（例えば、最低修得単位数が4単位の場合は、120～180時間となり、教育実習の実施期間としては、3～4週間程度となる）。なお、実施期間を変更する場合でも、単位数や履修方法（必修又は選択の別）に変更がない限りは、これの伴う教職課程認定上の手続きは必要ない

こと。以下についても同様。

○感染症対策に取り組みながら教育活動を行う小学校等においては、通常期と同様な教育実習を行うことが困難な場合もあると考えられる。新型コロナウイルス感染症対策専門家会議が3月9日に示した3つの条件（換気の悪い空間、多くの人の密集、近距離での会話や発声）が重ならないようにすること等に留意し、教育実習の内容、方法等について、受け入れ先の小学校等と相談しつつ弾力的に検討していただきたいこと。また、新型コロナウイルス感染症については、日々の状況が変化しつつあるところであり、下記の文部科学省のホームページなどを通じて関係省庁や自治体等から最新の情報も十分に踏まえて対応いただきたいこと。

○実習期間や内容、方法等の検討に当たっては、大学・専門学校等における事前・事後指導等で履修すべき内容と小学校等での教育実習で履修すべき内容や活動の在り方を見直すことも考えられること。

## ② 学生への事前指導

○教育実習の実施2週間程度前から、毎朝の検温及び風邪症状のチェックを行うことや、感染リスクの高い場所に行く機会を減らすことなどを学生に徹底していただくこと。実習中は、これに加えて、手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染症対策を徹底し、マスクは常時装着することなど一層の感染症対策を行うことを学生に徹底していただくこと。

○教育実習に参加予定の学生の家族等の感染が確認されるなど学生が濃厚接触者に特定された場合、感染者と最後に濃厚接触した日から起算して2週間は教育実習への参加を見送るよう指導していただくこと。

○「新型コロナウイルス感染症に対応した学校再開ガイドライン」（令和2年3月24日）などの学校における感染症対策の取組について十分理解させた上で教育実習に参加させていただくこと。

○実習中は受入先である各小学校等における感染症対策に指示に従うことや、発熱等の風邪症状やその他体調不良が見られる場合には、小学校等と相談の上、児童生徒等との接触は絶対に避け、自宅で休養することを学生に徹底していただくこと。

## ③ 実習中の留意事項

○学生の感染が判明した場合や、地域の感染拡大の状況等により、急遽、教育実習を中止せざるを得ない場合などにおいては、大学・専門学校等、学生、小学校等・教育委員会が速やかに連絡を取り合うことができるよう、大学・専門学校等は確実に連絡体制を構築していただくこと。

## ④ 実習後の留意事項

○実習中の状況により、十分に実施できなかった内容があった場合には、大学・専門学校等は、事後指導等において、補充的な内容の授業等を行っていただきたいこと。

○教育実習の終了後に、学生の感染が判明した場合、大学・専門学校等は小学校等・教育委員会に速やかに連絡するとともに、「令和2年度における大学等の授業の開始について」（令和2年3月24日付け元文科高1259号高等教育局長通知）、「令和2年度における専門学校等の

授業の開始等について」(令和2年3月24日付け元文科教第1014号総合教育政策局長通知)等を踏まえ、適切な対策を行っていただきたいこと。

令和2年に実施が困難となった教育実習の代替措置

- ① 令和2年度に限り、教育実習の科目の単位の全部または一部を大学での実習等で代替可能とする。
- ② 省令改正内容(教育実習特例)の科目単位読み替えと、大学での実習代替授業を組み合わせることができる。

### (3) 実習を縮小または中止する学内の根拠と、実習実施の保育系実習における COVID-19対策

#### ① 教育実習Ⅰ(付属幼稚園)短縮

教育実習Ⅰはこれまで毎年、大学と同じキャンパス内にある名古屋短期大学付属幼稚園(以下、付属幼稚園)にて5日間の実習を実施してきた。1年生250名が15~16名ずつゼミごとに実習に行くため、前期から後期にかけて長期間の実習日程を立てており、2020年度は前期5月11日(月)より7月初旬までに8ゼミ、後期は夏期休暇期間中である9月14日(月)より12月初旬までに8ゼミの計16ゼミが実習に参加する予定となっていた。しかし、COVID-19による緊急事態宣言の発出および、2020年4、5月大学構内の入構禁止措置が取られたことにより、事前・事後指導を含めた全体的な時期の見直しおよび、実習の延期・短縮・中止の全てを視野に入れて、検討を行うこととなった。

教育実習Ⅰの事前・事後指導および実習期間について、教育実習Ⅰ事前・事後指導担当者(以下、指導担当者)と付属幼稚園の園長、副園長、教諭との間で打ち合わせを重ね、前期は7月1日(水)より7月22日(水)まで、実習期間を3日間と短縮して5ゼミに対して実習を実施することを実習委員会および学科会議にて決定した。実習短縮の根拠は、①16ゼミ全てに平等な実習の機会を保障するため、②できる限り感染のリスクを避けて実習を実施するため、③コロナ再流行等による学生の欠席、実習中断等のリスクに最大限対応できる実習の形を取るための3点であった。また、COVID-19の影響により子どもとの交流がどの程度可能かが明確ではない状況にあったため、教育実習Ⅰの目的の1つである「子どもと共に生活し、遊ぶ中で、保育の楽しさを味わう。」という実習の目的を、「保育者の援助や役割を知る」に変更した。実習方法は、従来からの参加実習であったが、厳しい感染症対策のもとでの実習となった。実習時間の不足分(当時の文科省通知に従い9時間分)については学内プログラムによる補完を実施した。

前期の実習が終了した直後の7月24日(金)より再び大学構内の入構禁止が決定し、その後もCOVID-19の第二波が到来し、入構禁止期間が延長したため、9月中旬を予定していた実習再開を延期することとなった。担当者と付属幼稚園関係者との間で何度も協議を行い、実習日数をさらに短縮した1日間とすることを実習委員会および学科会議にて決定した。短縮の根拠は、上述した根拠に含め、COVID-19終息の見通しが立たず、季節が冬に向かうことでさらなる感染拡大の懸念があったためである。実習の目的を、「保育者の援助や役割を知る」、「自分が何をしたいかを選んで観察・記録を行う」にさらに変更した。また、実習の方法を子どもと関わらない観察実習とし、給食は保育室で園児とは離れた場所でのとる等さらに感染症対策を厳重にした上での実



習となった。実習時間の不足分（前期実習ゼミとの公平性の観点から23時間分）については学内プログラムによる補完を実施した。11月4日(水)より6ゼミ目の実習を再開し、11月19日(木)に16ゼミ目の実習が終了した。以上より、教育実習Ⅰについては1年生全員が3日間ないし1日間の実習を行うことができた。教育実習Ⅰが無事に終了したのは、付属幼稚園と事務局、教育・保育職支援センターと実習委員会との綿密な連携、そして付属幼稚園 園長先生や副園長先生をはじめとする教諭の皆様のご協力があったからこそ実現したものであった。

実習の事前・事後指導の日程および学内プログラムの詳細は、別資料2、3に示した通りである。事前・事後指導の一部はMoodleを利用したオンデマンドによる授業動画の視聴と課題提出に切り替え、対面指導が必要な内容を優先して対面の指導により実施した。加えて、指導の中に「感染症対策・対応」を組み入れ、実習に行く4週間前からの感染症対策の徹底、2週間前からの行動記録の作成と提出、擬似感染症状や感染・濃厚接触判明等の際の対応について学生に指導を行った。教育実習Ⅰ独自の感染症対策マニュアルを作成し、学生には保護者と共にマニュアルに目を通すことを指導した。

## ② 保育実習Ⅰ（施設）一部短縮（2019年度）

先に記したようにCOVID-19の世界的拡大が伝えられ始めた2020年の1月下旬から3月下旬にかけて、1施設2名から5名が五月雨式に施設実習に臨む予定であったが、結果として21名の学生が実習に臨むことができず学内における代替実習とした。

国内における感染拡大が徐々に広がりを見せる中、施設の特性上、外来者の訪問を制限する施設が増えだしたのが2月中旬である。この段階で施設実習担当者としては教員による指導訪問により万が一にも施設にウイルスを持ち込むことがないように、そのリスク回避の方策を検討した。それは「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」（別紙2）「保育実習実施基準」第3の4の規定により、実習期間中に教員が1回以上訪問することが定められているからである。以下、その規定である。

4 指定保育士養成施設の実習指導者は、実習期間中に少なくとも1回以上実習施設を訪問して学生を指導すること。なお、これにより難しい場合は、それと同等の体制を確保すること。（下線筆者）

筆者らはまず本学を所管する愛知県庁に上記規定の下線部分、すなわち、実習は継続しても教員の訪問は「これにより難しい場合」としても構わないか、同年2月25日に問い合わせを行った。なお、この段階で厚生労働省、愛知県庁等の行政機関から養成校に対しての指示等はなかった。愛知県庁からは上級庁である厚生労働省に確認のうえ、以下通り回答があった（抜粋）。

養成施設において「これにより難しい」と判断した場合は、テレビ会議の活用、電話等による状況聴取に代えていただくことについては差し支えありませんが、学生等に対する指導効果が十分に確保されるようお願いします。

実習担当者は実習委員会に上記返信を報告し、この返信をもって、まずは教員の訪問を「これにより難しい」とすることとして、原則訪問を中止することとし、同27日に以下のとおり各教員に通知した。

- ① 教員の訪問指導は原則行わない。電話等で施設、学生からそれぞれ状況を聞き、学生には必要な指示を行う。
- ② すでにアポイント済みの施設には訪問しない主旨を説明し、了解を得る。
- ③ これからアポイントをとる場合は原則訪問しない。
- ④ どうしても訪問が必要な場合には、愛知県から指示のあった以下の対応をとった上で訪問する。
  - (1) マスクの着用を含む咳エチケットや手洗い、アルコール消毒等により、感染経路を断つこと。
  - (2) 実習指導者の訪問前に体温を計測し、発熱等の症状が認められる場合や、風邪のような症状のある場合には訪問の延期・中止や、訪問職員の交代をすること。

その後も感染拡大が相次ぎ、ある実習生が実習を終えた施設（施設種別、所在地、実習人数等は本稿において秘匿とする）から施設関係者に COVID-19 の陽性者が確認された旨大学に連絡があり、緊急に対応を協議した。その施設では複数名の学生が実習をしており、実習を終えた後に登校して就職講座を受講していることが確認された。施設実習担当者は直ちに該当学生に可能な範囲の状況説明を行い、帰宅させて1週間の自己隔離並びに健康観察を指示した。

#### ③ 保育実習Ⅰ（保育所）中止

4月に国や県の緊急事態宣言があり、4月6日桜花学園大学・名古屋短期大学では、全キャンパスの学生の健康と安全を最優先に考え、2020年度の本学の授業開始が5月18日に延期になった。授業開始延期を受けて、2020年5月18日～30日に予定していた保育所における保育実習Ⅰを中止とし、4月10日から保護者や関係各所に連絡を行った。

#### ④ 教育実習Ⅱ 中止

教育実習Ⅱ（幼稚園）は、2020年9月23日(水)より10月9日(金)まで実施される3週間の幼稚園実習に向けて、7月16日(水)より実習事前事後指導を開始した。例年は2年生全6クラスの学生を集めて一斉指導を行っていたが、今年度はコロナ禍での密を避けるため、3クラスずつでの授業展開として行った。

5月1日には文部科学省より「令和2年度における教育実習の実施期間の弾力化について」の通知を受領した。そこには90時間の実習のうち2/3（60時間）は現場での実習（体験）が必須であることが示されていたため、実習は60時間に短縮し、不足分を学内プログラム等で補うという想定で、私たち実習担当者は対応することになった。

しかし、8月に入っても愛知県内でのコロナ感染状況の良くなる兆しが見えなかった。そして実習先からは実習の受け入れの取り止めや実習延期の申し入れが相次ぐ状況となった。そして更には県外で実習する学生に対しては、実習前2週間は大学の授業を含む愛知県への移動を避けて

ほしいという依頼が大学に寄せられるようになった。こうした現場からの要請に対し、一部の園や地域での実習時期の延期を検討したり、実習2週間前から事前事後指導を遠隔授業で実施できないかなどと検討したりしていった。こうした対策を実施する過程では多くの困難点があったが、それでも何とか学生を実習に出したいという筆者らの強い思いがあり、8月に入っても対応策の検討が実習委員会の中で続けられた。

そして、8月11日には文部科学省から「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律施行規則の一部を改正する省令等の施行について」という通知が届いた。その主要内容は「課程認定を受けた教育実習以外の科目の単位を実習の単位として振替ができる」という、教育実習特例の知らせであった。本学ではそれを受けて、教育実習Ⅱの実習中止という判断を下すこととなった。そしてその根拠を以下の5点に整理した。①実習先からの受け入れ不可、②学生及び実習園関係者の感染リスクを避けるため、③遠隔授業で実習指導を行うことの限界、④保育実習Ⅱとの連携、⑤8/11の文部科学省からの通知である。その5点の内①については、当初個々の学生への対応を検討していたが、次第にその案件が増加した場合本学科のような大所帯では、実習不可能となる事案が生起することは予測できた。実習に行ける学生と行けない学生が出ることは学生にとって不平等であり、それを避けたいという思いは強かった。そして③についていえば、自宅に遠隔授業を受ける環境が十分に整っていない学生が短大生には多く見られ、実現が難しかったということがあった。十分な事前指導が行えなければ、やはり実習に出すことはできないというのが私たちの判断だった。④については、教育実習Ⅱのすぐ後に控えている保育実習Ⅱ（保育園実習）のことを考えた時、実習期間の延期は保育実習Ⅱの事前指導期間への食い込み、保育実習Ⅱについての指導の不十分さが危惧された。

以上のことを踏まえて、私たちは実習中止の判断をした。しかしその一方で、実習を一切行わず他科目単位の振替のみで実習単位とするのではなく、学生たちに実践の力となる学びが必要であると考えたため、筆者らはそれを目的とした学内プログラム〔2.(4)参照〕を計画し、実施していくこととした。

#### ⑤ 保育実習Ⅱ 中止

COVID-19感染者が下止まりで収束の見通しがなく、また秋から冬にかけて感染症が流行しやすい時期となることも踏まえ、2020年11月24日～12月5日に予定していた保育実習Ⅱを10月初めに中止の決定をし、保護者や関係各所に連絡を行った。学生の健康と安全と加えて地域の子どもや子育て家庭、及び保育現場の全ての方々の健康や安全を考慮した上での決断であったが、2年次に予定されていた保育現場での実習がすべて中止になることになり、誠に苦渋の決断であった。

【桜花学園大学・名古屋短期大学 2020年度教育・保育系実習における COVID-19 対策表（2020/05/14現在\_Vol. 8）】の決定（別資料1）

- ① 判断基準：①学長発令、②当該学科、③実習先（保育所・幼稚園・施設等・小学校・中学校・特別支援学校など）の3つを総合的に捉えて判断する。
- ② 実習の見合わせ（要検討）/見合わせ解除/停止/停止後における学内補完対応（保育実習系に限る）・延期及び一部学内補充対応は、当該学科で判断する。



- ㉔ 桜花学園大学保育学科の介護等体験は、小学校教員免許に係る教育実習系のため、読み替え対応の保育実習Ⅰ（施設：5日間分）の実施状況との兼ね合いに留意する。
- ㉕ 感染の疑いがある体調不良が現れた場合の学生：帰国者・接触者相談センターに連絡し対応の指示を受ける。感染の疑いがあることを電話で事務局学生課（0562-97-5503/1306）まで連絡する。
- ㉖ 国及び自治体等により発出された通知や最新情報により、下記対応を適宜協議し、変更・更新していくこととする。

## 2. 実習種別の学内実習プログラムの実践

### (1) 教育実習Ⅰ（付属幼稚園）

「教育実習Ⅰ（付属幼稚園）短縮」にて先述した通り、前期には3日間の実習を5ゼミが実施し、後期には1日間の実習を11ゼミが実施した。前期と後期での実習日数の変更に伴い学内プログラムの時間数は、後期に実習参加した11ゼミの学生で大幅に増加した。表1・表2に前期と後期における学内プログラムの内容を示した。前期と後期で共通の内容としては、①付属幼稚園オリエンテーション、②保育教材の制作・発表、③絵本の読み聞かせの計画作成の3点であった。①は、実習に参加することを前提とし、実習先である付属幼稚園の施設および環境の見学および観察による事前学習をねらいとしたものであった。②と③は、児童文化財に対する学びと実践をねらいとする内容であった。この3点以外については、後期に1日間の実習を行った11ゼミの学生、計170名を対象としたものであった。内容としては、付属幼稚園の子どもと保育者の生活や遊びの様子を撮影した映像を用いた「付属幼稚園の映像より学ぶ①～④」を1つの軸としてプログラムを実施した。この映像は指導担当者が事前に付属幼稚園の協力を得て撮影を行ったものであり、実習の事前のプログラムでは、映像から記録と考察を行う指導を2回、実習の事後のプログラムとしては、遊びと生活のそれぞれの場面における保育者の役割にクローズアップした映像と指導担当者による説明を実施した。加えて、付属幼稚園の映像より学ぶ④では、付属幼稚園の各クラスの教諭より学生へ一言ずつメッセージをいただき、今後の実習への励ましや保育職の魅力をお話いただいた内容を学生は映像で視聴した。

さらに、児童文化財の実践を行うことを目的として、「創作手遊びアレンジ」を行った。これは、ゼミごとに2つのグループを作り、7～8名のメンバーで従来から存在する手遊びを学生たちでアレンジし、楽譜と振り付けの資料を作成することと、手遊びを動画で撮影するという課題であった。以上のように、教育実習Ⅰの学内プログラムは、実習の事前・事後指導の目的と密接に関連した内容となっており、実習先である付属幼稚園を理解することや記録の作成、児童文化財に関する学習と実践に重点を置いたものであった。

## 教育実習Ⅰ（付属幼稚園）実習プログラム

表 1. 前期実習 5 ゼミ（実習 3 日間）の 2020 年度 教育実習Ⅰ学内プログラム

日時	内容	対象・場所
6 月 3 日 / 3 時間目	オリエンテーションの記録について 付属幼稚園における実習オリエンテーション	前期実習の 5 ゼミ 222 教室
自宅学習 9 月 30 日 / 1 時間目	保育教材制作・発表	前期実習の 5 ゼミ 体育館
自宅学習	絵本の読み聞かせ計画	課題提出（10 月末提出締め切り）

表 2. 後期実習 11 ゼミ（実習 1 日間）の 2020 年度 教育実習Ⅰ学内プログラム

日時	内容	対象・場所・締め切りなど
自宅学習 後期実習① 6 ゼミ：9 月 25 日 / 4 時間目 後期実習② 5 ゼミ：9 月 25 日 / 1 時間目	保育教材制作・発表	後期実習の 11 ゼミ ①：2 号館 2 階、3 階の教室 ②：体育館
後期実習① 6 ゼミ：10 月 21 日 / 4 時間目 後期実習② 5 ゼミ：10 月 14 日 / 4 時間目	オリエンテーションの記録について 付属幼稚園における実習オリエンテーション	後期実習の 11 ゼミ ①：121 → 付属幼稚園 ②：131 → 付属幼稚園 課題提出締め切り (①：10 月 26 日、②：10 月 19 日)
後期実習① 6 ゼミ：10 月 14 日 / 4 時間目 後期実習② 5 ゼミ：10 月 14 日 / 3 時間目	付属幼稚園の映像による学び＋記録①	後期実習の 11 ゼミ ①：121 教室 ②：131 教室
後期実習① 6 ゼミ：10 月 29 日 / 5 時間目 後期実習② 5 ゼミ：10 月 29 日 / 5 時間目	付属幼稚園の映像による学び＋記録② 提出物の確認・実習直前指導	後期実習の 11 ゼミ ①：222 教室 ②：131 教室
自宅学習	自己課題の作成	課題提出締め切り (①：10 月 19 日、②：10 月 26 日)
11 月 25 日 / 1 時間目	付属幼稚園の映像による学び③	後期実習の 11 ゼミ ①：222 教室 ②：212 教室
12 月 9 日 / 1 時間目	付属幼稚園の映像による学び④ ＋学内プログラム振り返り	後期実習の 11 ゼミ ①：222 教室 ②：212 教室
自宅学習 ゼミごとの取り組み	手遊びアレンジ作成	動画と資料の提出 (12 月 10 日提出締め切り)
自宅学習	絵本の読み聞かせ計画	課題提出 (12 月 10 日提出締め切り)

## (2) 保育実習Ⅰ（施設）

2019 年度入学生の保育実習Ⅰ（施設）の学内プログラムは、他の実習種と異なり 9 割以上の学生が実習を終えた段階で、なおも現場実習を行うことができなかった学生が代替実習を行うこととなったため、少人数であることから個別指導も含めたきめ細かな指導を行うことができた。加えて、感染拡大が落ちついているタイミングで数日間現場体験を行うことができたため、実習

を行うことができた学生と遜色ない学びを得られたものと考えられる。

一方、2020年度入学生については、先に記した厚生労働省保育課通知をもって2021年2月に学内代替プログラムを実施することとし、現場実習を見送った。その背景として、感染拡大の終息が見通せない中で、現場実習の可能性を闇雲に探ることよりも、代替プログラムの充実をはかる方が得策と考えたためである。

2020年度入学生の実習見送りを受けて、施設実習担当者は桜花学園大学保育学部2学科の施設実習担当者と打ち合わせを行い、現場の声を学生に直接聞かせる機会を設けることを含めて学内資源の共有に努めている。本稿執筆段階で代替プログラムはまだ実施していないが、厚生労働省の告示にある教授内容を確実に学修できるように学内の施設実習担当者が協力してその内容を組み立てている。

### (3) 保育実習Ⅰ（保育所）

6月1日(月)より本学における対面授業が開始となり、保育実習Ⅰ事前事後指導と保育実習代替プログラムを対面授業で行った。表3に示すとおり、対面授業だけでなく学生個人やグループで実践の準備や計画などに向けて自主的に学ぶ内容（太字部分）を組み入れた。計画立案の当初

表3. 保育実習Ⅰ事前事後指導と保育実習代替プログラムの実施内容

	内 容		
実習	理想の保育者像、自己課題プリント（個人）		
実習指導(1)	①日誌・書類等配付 ②実習の目的・意義講義 ③保育現場体験について※1		
実習	実習記録の意義要約プリント（個人）		
実習	プリント課題集（個人）		
実習指導(2)	①施設実習成績開示 ②自己課題説明および検討		
実習指導(3)	①自己課題返却及びグループ再検討	②環境構成について（書き方指導含む）	
実習指導(4)	②エピソード記録	①一日の記録	講義および練習（DVD 視聴）
実習指導(5)	講義および練習（DVD 視聴）	①記録練習の続き	
実習(1)	①部分実習の目的・計画の立てかた ②題材抽選・指導案作成		
	① 3 限の続き、グループワーク		
実習	模擬保育準備（教材選定・教材準備・部分指導案作成・練習）（個人・グループ）		
実習(2)	①模擬保育【紙芝居】（8 人グループ・1 人 1 つの指導案）		
実習(3)	グループのメンバーは全員同じ紙芝居を扱う。演じ方・抜き指示があるものを事前に選定		
実習	模擬保育省察ワークシート（話し合いグループ）（省察・まとめ—個人）		
実習	模擬保育準備（教材選定・教材準備・指導案作成・練習）（個人・グループ）		
実習(4)	①模擬保育【活動が伴うもの】（8 人グループ・2 人で 1 つの指導案）フルーツバスケット、		
実習(5)	椅子とり、しっぽ取り、だるまさんがころんだ、ジャンケン列車、魔法の新聞紙、色おに		
実習	模擬保育省察ワークシート（個人）		
実習	指導案再検討（個人）		
実習	指導案作成（実践による評価反省を踏まえた指導案の練り直し）（個人）		
実習指導(6)	①保育実習Ⅰのまとめ ②今後の実習に向けて		
実習	プリント課題集（個人）		

は、新型コロナウイルスの状況がよくなり次第、保育現場での数時間の見学を意味する「保育現場体験」（表3※1）を計画し、第1回授業で目的等説明をしたが、実際には感染拡大傾向にある厳しい状況下で実施することはできなかった。

この内容は、次に予定している教育実習Ⅱを視野に置き、保育実習Ⅰの中止で不足する知識と実践力をつけることを目的に指導を行った。

この対面授業では、前半では通常の実習指導とほぼ同じ内容で記録（一日の記録・エピソード記録）や部分実習の立て方など実習生として基礎的な力をつけることを目的として指導を実施した。後半は保育の実践力をつけることを目的に計2回の「模擬保育」をグループで計画し行うことを中心に主体的に話し合いや教材の選定、計画、準備、練習などに取り組むようにした。実践するだけでなく、実践後の省察と再検討も取り入れた。模擬保育は学生にとってかなり準備や検討に時間を要する内容であったが、この時点で実践力をつける方法として取り入れた。

なお、すべての実習代替プログラムについては、保育実習Ⅰの評価ポイントを網羅していることを確認したうえで計画し実施をした。

#### (4) 教育実習Ⅱ・保育実習Ⅱ

保育実習Ⅰ（保育所）の実習中止を受け、学生が大きな不安を抱いている様子が浮き彫りとなった。そこでわれわれ教職員は学生たちの思いを胸に、2020年7月16日、教育実習Ⅱの事前指導を開始した。しかしCOVID-19感染拡大の影響により、教育実習Ⅱのみならず保育実習Ⅱの実習までもが断念せざるを得ない状況に追い込まれた。

本大学における教育実習Ⅱの実習の意義は、「幼児や保育者とともに生活する中で、身体全体で幼児教育を理解すること」、「保育現場の実践で得た知識と学校における日々の学びと照らし合わせながら、幼児理解を深め、実践力を高めていく」ことである。また保育実習Ⅱの実習意義は、「保育実習Ⅰの実習で学習した内容を踏まえたうえで、自ら保育の計画を作成し、実践することを体験し、保育士としての必要な資質・知識・技術及び判断力を習得する」こととなっている。そこで再び不安ムード漂う学生たちの士気を高めていくことを目的として、「楽しく・実践的」に大学内及び自宅学習において保育現場体験活動ができないかと、表4・表5の実習代替プログラムを考案するに至った。このプログラムの特長は、本大学の教育実習Ⅱ・保育実習Ⅱの意義に沿い、①保育者として必要な知識・技術・実践（感性）を磨くこと、②保育者として向上する心（新たな課題発見）を育てていくことにある。

実習代替プログラムは、主に教育実習・保育実習・教育保育職支援センターの指導教員によって行われた。本学には実習指導教員の他に教育保育職支援センターが併設されており、ここには「実習指導の補完」という役割がある。そこで保育科実習委員会の承認を得て、教育保育職支援センターに依頼し、センター教員による特別プログラムも実施した。本学のセンター教員は保育経験が豊富で保育のスペシャリストが揃っているといっても過言ではない。そのため、「子どもの生きる力を育む保育者を目指し、学生自身に多くの経験をさせて欲しい」「実習で経験できなかったことの一部分でも補えるように“楽しく実践的に学ばせて”欲しい」という願いを伝え、センター教員の視点でプログラム内容を検討していただいた。このような願い（保育者として必

表4. 教育実習Ⅱおよび保育実習Ⅱ事前事後指導と保育実習Ⅱ代替プログラム（教育実習Ⅱ期間）

	学習内容	備考	回数
知識	多様な専門分野から自ら専門分野を選択し学び直し・新しい学びを行い、学習成果をレポートにまとめる。	全員必須	概要説明1回 PC・図書館利用1回 それ以外は自宅で行う
技術と実践	内容(1)ピアノ	<u>4つの内2つ</u> 選択	授業2回×2つ (説明1回・発表1回) 制作・練習は自宅 途中遠隔で実践報告等有
	内容(2)児童文化財		
	内容(3)壁画		
	内容(4)手作りおもちゃ・あそびネタ		
	センター指導教員による「特別プログラム」 (3つのプログラムあり)	<u>3つの内1つ</u> 選択	授業3回実施
	実習指導(1) 時間割作成・プログラム詳細	全員必須	授業7回実施
	実習指導(2)(3)(4)映像を見て学ぶ		
	実習指導(5)(6)日案に挑戦する		
	実習指導(7) 保育者の生の声から学ぶ（外部講師講演）		

表5. 保育実習Ⅱ事前事後指導と保育実習Ⅱ代替プログラム（保育実習Ⅱ期間）

	学習内容	備考	回数
技術と実践	内容(1)ピアノ	教実で選択したもの 以外のプログラム <u>1つ</u> 選択	授業2回 (説明1回・発表1回) 制作・練習は自宅 途中遠隔で実践報告等有
	内容(2)児童文化財		
	内容(3)壁画		
	内容(4)手作りおもちゃ・あそびネタ		
	センター指導教員による特別プログラム (3つのプログラムあり)	教実で選択したもの 以外のプログラム <u>1つ</u> 選択	授業3回実施
	実習指導(1)(2) 専門職としての基礎的心構え	全員必須	授業6回実施
	実習指導(3)(4) ・映像から乳児保育を学ぶ ・乳児の理解 保育の方法		
	実習指導(5) ・保育実習Ⅰプリント課題フィードバック ・プログラムの総括		
	実習指導(6) 保育者の生の声から学ぶ（外部講師講演）		

要な技術・実践（感性）を磨くためのプログラム）のもとで考案、完成したプログラムの詳細は表6・表7の通りである。以下、表に示された内容は学生に周知した際のものである。

教育実習Ⅱの期間、学生には表4のプログラムから2つのプログラムを選択させた。保育実習Ⅱの期間には教育実習期間に選択したプログラム以外の内容を1つ選択させて、計3つのプログラムに取り組みさせていった。表7のプログラムでは、教育実習期間・保育実習期間、それぞれ異なるプログラムを1つずつ選択させ、計2つのプログラムに取り組みさせた。



表 6. 技術と実践の 4 つの内容

内容(1) ピアノ	保育現場で必要とされるピアノスキルを身につける。保育で活用できる歌の選曲、自分の実力に応じた伴奏、正確なリズムを意識した演奏を通してピアノに慣れ親しみ、楽しく笑顔で弾き歌いができるようになるコツを学ぶ。 初回到学習方法、成果物の発表方法について説明あり。
内容(2) 児童文化財	エプロンシアター、パネルシアター、手袋人形、パペット、紙芝居、ペープサート、手品などの児童文化財の制作を行う。仕掛けのあるものを作り、幼児を楽しませる工夫や、身近な材料を利用する工夫について学ぶ。初回到制作および発表についての説明を行う。期間内に制作する。途中経過発表、最終日の発表あり。
内容(3) 壁面制作	就職後に活用できる壁面飾りを作る。自分の技量の範囲内で汎用性が高い飾り（着せ替え可能・パーツが動く・表情が変えられる等）を作ることで、応用力を高めるとともに、業務の効率化について学ぶ。初回到制作条件やコツの説明あり。期間内に自宅で制作、途中成果発表はなく、最終授業で完成品を披露する。
内容(4) 手作りおもちゃ あそびネタ	①クラスの子どもたちに遊んでほしい玩具を手作りする。 ②クラスの子どもたちと一緒に遊びたいあそびネタに必要なものを作る。 ③クラスの子どもに自慢できるあそびネタ（技）を身につける。 子どもと一っしょに遊べる先生を目指す。初回到制作条件とポイント条件について説明。期間内に制作、経過報告あり、最終日披露あり。

表 7. センター指導教員による特別プログラム

【コース 1】クラスだよりを描いて・書いてみよう	
内 容	1 回目：クラスだよりって何？ どんな事を書いたらいいの？ 保健・絵本・行事への様子なんでもいいから書いてみよう！ 2 回目：どんな文章で書いてみる？ どんなイラストを入れたい？ 3 回目：掲示用として可愛くしちゃう！ 互いに見せあって自慢しよう！
【コース 2】五感を使ってお散歩コースを見つけよう！ 学内オリエンテーリング	
内 容	1 回目：グループを作る。学内コースをまわってみよう。 2 回目：それぞれのコースを歩いて発見しよう！（子供で 30 分程度のコース） （音・匂い・感触・味など五感を感じるものを見つけてみよう） 3 回目：お散歩コースの気付きや発見を、地図に書いてみよう！ ＊出来上がったマップを見て互いに自慢しよう！
【コース 3】My お手玉を作って遊んでみよう！	
内 容	1 回目：お手玉作りに挑戦しよう！ A) 座布団型、B) 俵型 どちらか選んで、作ろう 2 回目：頑張って 5 個完成させよう！ 3 回目：My お手玉で遊びを楽しもう！ 遊び方教えます。一緒に遊ぼう！

### 3. 学内プログラムの学生の自己評価

#### (1) 1 年生 教育実習 I（付属幼稚園）（一部実習学内プログラム）

後期に実習へ行った 11 ゼミの 1 年生 170 名の学生のみを対象に、学内プログラムの最終日であ

る12月9日(水)に Moodle を使用して学内プログラムの自己評価を実施した。後期実習参加の学生のみを対象とした理由としては、前期実習参加の5ゼミの学生については、学内プログラムの内容の大半が先述の通り付属幼稚園のオリエンテーションと自宅学習で占められていたためである。以下は、自己評価の8つの項目である。自己評価項目は、2年生と同様の項目を使用した。対象となる170名中162名が回答を行った（回答率95%）。162名の自己評価の結果を以下の表8に示した。表8は、各項目に対する評定の分布（人数）と、評定平均値を示したものである。

- ①学内プログラムの意義・目的を理解して取り組んだ
- ②保育現場での実習をイメージして取り組むことができた
- ③保育に対する知識・技術・実践力を高めようとして取り組んだ
- ④自己の課題を認識して取り組む姿勢を持つことができた
- ⑤保育に対する新たな興味や関心が深まった
- ⑥自分の課題に計画的に取り組むことができた
- ⑦学内プログラムに取り組みながら自分なりの改善策を見出すことができた
- ⑧学内プログラムに取り組んだことで保育実践に対する自信や期待が高まった

表8. 教育実習Ⅰ 学内プログラム自己評価の評定分布（人数、n=162）と評定平均値

	① 目的の 理解	② 現場実習 のイメー ジ	③ 知識・技 術・実践 力	④ 自己課題 の把握	⑤ 興味・関 心の深ま り	⑥ 課題に計 画的に取 り組む	⑦ 自分なり の改善策	⑧ 自信・期 待
1 そうではない	0	0	0	0	1	0	0	1
2 あまりそうではない	1	1	1	1	0	4	3	1
3 どちらでもない	1	9	0	9	4	12	14	16
4 まあそうである	52	51	29	66	32	89	90	64
5 かなりそうである	108	101	132	86	125	57	55	80
評定平均値	4.64	4.54	4.80	4.46	4.73	4.22	4.22	4.37

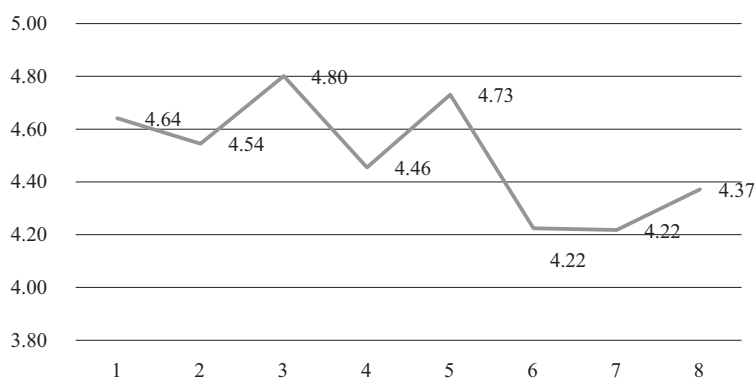


図1. 1年生の学内プログラム自己評価平均値（n=162）

1年生の教育実習Ⅰ（付属幼稚園）は、前掲の実習種別の学内実習プログラムの実践にあるように、実習日数を短縮し、実習と学内プログラムの併用で行った。前半のゼミは3日間実習できたものの、COVID-19の第二波、第三波の影響もあり、後半のゼミは1日の実習経験となった。後半のゼミは、実習できないかもしれないという不安を持ちながら辿りついた実習であったこともあり、子どもとかかわることについての充実した気持ちを大きかったのではないだろうか。

実習できないかもしれないという気持ちを抱きながら不安な日々を送り、1日でも子どもの様子を実際に感じる事ができたことが、高評価につながっているのかもしれない。特に4.8ポイントという高い平均値を示している、「保育に対する知識・技術・実践力を高めようとして取り組んだ」と、4.7ポイントの「保育に対する新たな興味や関心が深まった」については、学生の希望と期待が表れている数値であることが推察される。1年生の年度末に予定されていた保育実習Ⅰ（施設）は、中止を決定し、学内プログラムに切り替え、学生には告知しているため、士気の低下は否めないが、今回の自己評価を保って、2年生の実習に臨むことができるようにしていくことは必須である。

## (2) 2年生 全実習（学内プログラム）

2年生は、全実習において、学内プログラムに切り替えた。プログラム終了後学内プログラムの取組について自己評価を行った。自己評価は、Moodleを活用して5段階で回答を求めた。回答は、全プログラム参加者中135名である。自己評価項目は1年生と同様である。

回答は、各評価の平均値で示した。その結果は、図2の通りである。（グラフ値左から①～⑧）図2が示すように、学生の平均値に差はなく、自己評価は高い値を示した。取り組んだことに対する自己満足も推察できる。実習に出られないことについての不満や不安の感情を表す学生もあったが、自分が一生懸命取り組んだことについてはほぼ満足であったことをうかがうことができた。学内でのプログラムは、保育現場の保育者の実際の指導はないため、保育者の実際の指導から感じ取る感情の起伏を自己評価に反映することはできないことを推測する。実習後の自己評価は、実際に保育現場で実習する通常であれば、格差が生じているのではないかと予測する。そこで、同時期に調査した学修カルテ38項目の内、実習に関連する27項目について、学生の自己

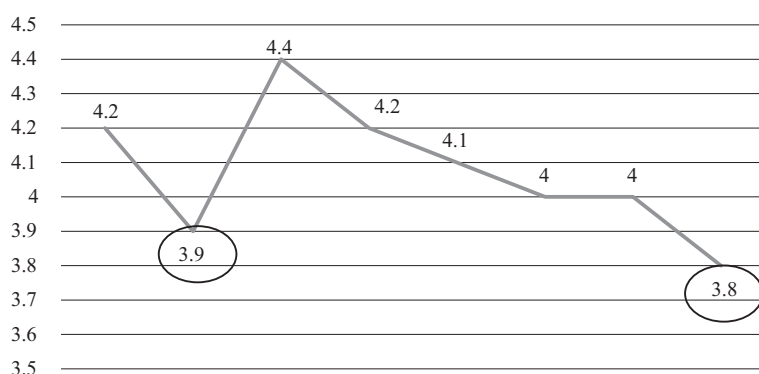


図2. 2年生の学内プログラム自己評価平均値 (n=135)

評価の平均値についても合わせて考えてみた。評価項目は以下の通りである。

- ①教育・保育職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解している
- ②教育・保育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得している
- ③個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解している
- ④他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる
- ⑤集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる
- ⑥集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなしたりすることができる
- ⑦挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的な事項が身についている
- ⑧これまで履修した教育・保育内容の各領域について理解している
- ⑨幼稚園教育要領・保育所保育指針の内容を理解している
- ⑩教育・保育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得している
- ⑪保育内容の指導法についての基礎理論・知識・技能を習得している
- ⑫子どもの発達と保育内容を考慮した活動を構想し、子どもの反応を想定した指導案としてまとめることができる
- ⑬指導計画のねらいに応じた教材・資料を開発・作成することができる
- ⑭発問、話し方など、教育・保育を行う上での基本的な表現の技術を身につけている
- ⑮子どもの発達と保育内容を考慮し、ねらいに応じた環境を構成することができる
- ⑯授業での模擬保育や保育実践に積極的に取り組み、そこでの経験を振り返り、自己の課題を明確にしている
- ⑰自己の課題を認識し、その解決にむけて、学び続ける姿勢を持っている
- ⑱教育・保育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりの意見を持っている
- ⑲学外実習終了後に、他者と共に実習での保育実践について振り返るなど自主的な反省の機会を設けて、自分が目指す保育のあり方や保育の力量を高めるための課題について他者と意見交換ができる
- ⑳保育ボランティアやインターンシップ、hca「幼児体育実践指導者研修」等への参加によって子どもと関わる機会を自ら作り、保育実践の能力が身についている
- ㉑日頃から社会の動向に目を向け、所属校やhcaによる講演会・研修会に参加するなど、保育や子育てに関する情報を収集し、保育のプロとしての知識を持っている
- ㉒自分の得意分野を把握し、その技術や知識を他者に伝えている
- ㉓他者と共に課題に取り組む中で、全体を見渡して役割分担を提案したり、到達目標を見通して他者に声を掛けたりすることができる
- ㉔「保育学生合同セミナー」などの学生間連携活動や課外活動に積極的に参加し、組織の一員として、他者と協力しながら全体の成果に貢献することができる
- ㉕授業や課外活動において地域社会と関わる活動に積極的に参加し、地域との連携・協力の重要性、そのあり方を理解している
- ㉖小学校以上の教育について関心を持ち、学童期以降の発達や学習指導要領をはじめとする教育内容を

ある程度理解している

㊴保育職に長く従事し、社会に貢献する意志がある

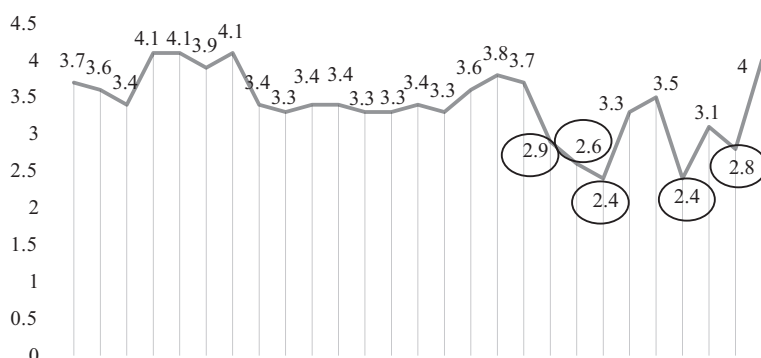


図3. 学修カルテ27項目の自己評価平均値 (n=175)

図2については、平均値すべて高い傾向にあったが、その中でも低い平均値であった2項目と、図3に示す低い平均値（○印）は、すべて保育現場で保育の経験ができないことから実感するものであることが推察できる。実習の学内プログラムへの取り組みについては、保育の知識や技術を深めるためのプログラムに集中することで、学生がそれぞれ目的意識を持って自分で考え、取り組むことができたと評価できるものの、実習における「保育実践」への自信にはつながりにくいようである。このことについては、卒業後、保育者となって保育をするようになってから結果が見えてくるのかもしれない。

学生の卒業後の追跡調査も含めて、今後、今回の経験をどのように活かすとよいのか、これまでの実習の指導の点検も踏まえて、学内プログラムの取り組みについて振り返りを確実に行う必要があるだろう。図3の最後の項目である「保育職に長く従事し、社会に貢献する意志がある」と、回答した学生が多いことが、この暗い社会状況の中で、誇らしい結果ではないだろうか。

#### 4. 学内プログラムの実践のまとめ

1年生、2年生それぞれの課程合わせてプログラムを作成して実践した。実習実施が先行き不透明な状況の中で、実習に出せるのか、出せないのかの迷いの中で、プログラムを作成して取り組んだため、計画性が十分であったとは言えない。しかしながら、学生と向き合い、学生が有意義で楽しく取り組めるように、「考え続けた」内容になったのではないだろうか。

その結果をみると、学生一人一人が学内プログラムに向かう姿勢や、出来上がったものの一つ一つを見てみると、格差がありよい評価であったと言い難いものであるが、その格差に目を向け、プログラムの内容や、取り組ませ方について、一律ではなく、学生個々の学びの状況や取り組む姿勢に合わせた指導が必要であることについて再確認できたことも今年度突如襲来したCOVID-19がもたらしたものではないかと考える。学生数が多いことで、指導が一律になっていることはやむを得ないことではあるが、それが学生一人一人の「らしさ」を活かした保育者養成



になるのではないだろうか。今後は、21世紀の保育者として、自分の考え（信念）を持った保育者になるために、「自分で自分を保育者に育てる」ことができる実習指導のプログラムを構築していくことが必要であり、保育者養成校の使命ではないだろうか。

## おわりに

2020年は、すべて初めてのことの連続であった。そして、考え続けた1年であった。COVID-19の勢いは未だ止まらず、この先もしばらくこの闘いは続くだろう。人間がウイルスに試されているのではないだろうかとさえ考えてしまう。

今まで当たり前に行ってきたことができない。普段の生活が普段通りにはいかなかった。これはやるのか、やらないのか、どうやってやるのかなど考えることばかりであった。そして、実習の有難さを教員も学生もかみしめた1年であった。この先10年に一度は、新型のウイルスとの闘いがあるのではないかとされている。今後は、この経験を活かして、「考えること」ができる人間教育が目標になるだろう。日常の当たり前に感謝しながら、今後の保育者養成に取り組みたいと考える。

## 謝辞

本学科の実習中止の判断や学内プログラムへの変更については、愛知県実習連絡協議会、愛知県私立保育園連盟、名古屋市民間保育園連盟、愛知県私立幼稚園連盟のご理解、ご協力をいただきました。また、学長はじめ教職員の皆様には多大なご尽力をいただきました。この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

## 参考・引用文献

- 一般社団法人全国保育士養成協議会編集『保育実習指導のミニマムスタンダード Ver. 2 協働する保育士養成』（2018）中央法規出版
- 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律施行規則の一部を改正する省令等の施行について（通知）
- 令和2年度における大学・専門学校等の教職課程等の実施に関する Q&A の送付について（8月28日時点）
- 文部科学省 令和2年度における教育実習の実施期間の弾力化について（通知）
- 教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令の施行について（通知）
- 保育実習の受け入れに際しての申し合わせ 一般社団法人愛知県私立保育園連盟
- 令和2年度における実習実施についての留意事項について（通知）
- 文部科学省 学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係る Q&A 等の送付について
- 厚生労働省 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う指定保育士養成施設の対応について
- 文部科学省 令和2年度における教育実習の実施の注意事項（通知）

## 保育科 実習委員会

**委員長** 小川 絢子 **委員** 青山 裕美・上原 隆司・小島千恵子・杉山 実加・橋村 晴美  
新沼 英明・吉田 真弓・小林 舞・中川 晶子  
**事務** 原田 知子・内藤 妙子  
**協力** 教育・保育職支援センター 加古典子・高橋祥予

別資料 1

【桜花学園大学・名古屋短期大学 2020年度教育・保育系実習における COVID-19対策表】

別資料 2

【2020年度 教育実習Ⅰ（事前・事後指導）前期実習5ゼミ（実習3日間）の授業一覧】

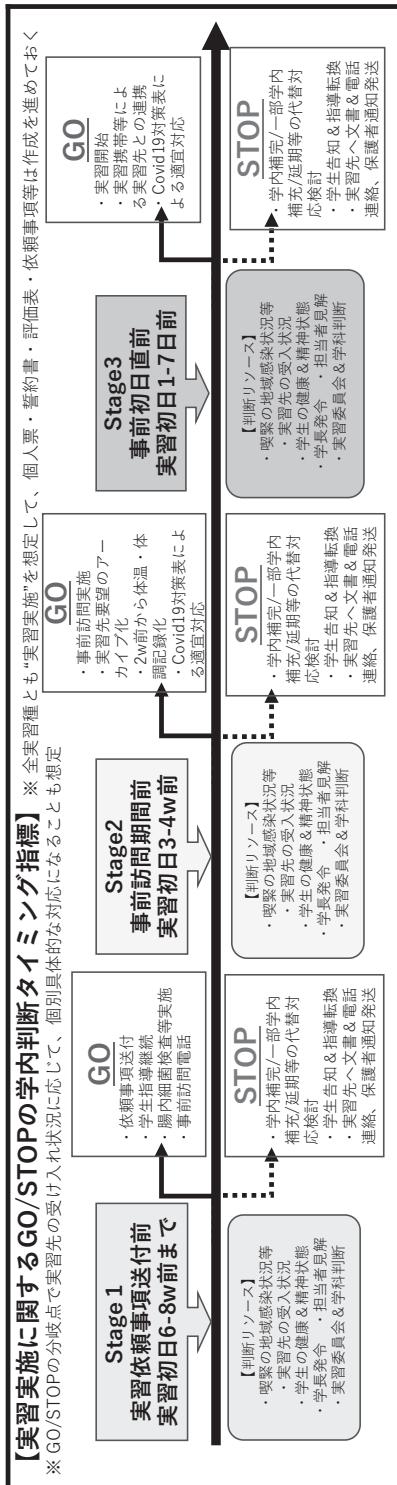
別資料 3

【2020年度 教育実習Ⅰ 後期実習11ゼミ（実習1日間）の（事前・事後指導）授業一覧】

（受理日 2021年1月7日）

[illegible]

資料 1 (続き)



2020年度実習一覧(5,11時点)	教育実習系 (小中は、愛知県教委より10月2W延長なしの通知あり)				保育実習系 (最終学年及び実習施設の受け入れが難しい場合は演習及び学内実習可)	
	実習先	幼	小	中	特支(介護等体験)	施設等(保実Ⅰ/Ⅲ)
桜花保育	① 教実Ⅰ:9-12月_1単位 ② 教実Ⅱ/Ⅲ:11-12月_4単位 ※③ 教実Ⅱ必須ボラ9-12月_40h ※④ ハイタンテーションシフト:通年	② 教実Ⅱ:9-10月_1単位 ③ 教実Ⅱ/Ⅲ:小9-10月_4単位 →2wに変更	×	×	② 介護等体験:9-1月_2日間(特支) ※8月保実Ⅰ/Ⅲ5日分の読書指導 ③ 介護等体験:9-1月_2日間(特支) ※8月保実Ⅰ_5日分の読書指導	① 保実Ⅰ:5月_2単位→学内補完 実習で決定済み
桜花国こ	① 教実入門:9-11月_1単位 ② 教実Ⅰ:10月_2単位	×	×	×	③ 保実Ⅰ:3月_2単位	③ 保実Ⅰ:保1-2月_2単位
桜花学芸	×	×	×	④ 教実Ⅰ:10月_4単位→2wに変更	④ 介護等体験:9-1月_2日間(特支) ※12月_5日間(老人保健施設)	×
名短保育	① 教実Ⅰ:6-12月_1単位 ② 教実Ⅱ:9-10月_3単位	×	×	×	① 保実Ⅰ:3月_2単位	② 保実Ⅰ:5月_2単位→学内補完 実習で決定済み ③ 保実Ⅱ:11-12月_2単位
名短専攻	※⑤ 保育特別実習:5-12月_週2回	×	×	×	② 介護等体験:9-1月_2日間(特支) ※8-9月_5日間(老人保健施設)	※① 保育特別実習:5-12月_週2回
名短英コ	×	×	×	② 教実Ⅰ:9-10月_4単位→2wに変更	×	×
名短現教	×	×	×	×	×	×

資料 2

前期実習5ゼミ（実習3日間）の2020年度 教育実習Ⅰ（事前・事後指導）授業一覧

回	内容	日時	対象・場所
1	実習の意義と目標 (授業動画視聴+課題)	Moodleを使用した 代替授業	全てのクラス
2	実習の段階 (授業動画視聴+課題)	Moodleを使用した 代替授業	全てのクラス
3	教育実習Ⅰ目標と具体的課題	6月3日/1時間目	ABCクラス：524教室 DEFクラス：222教室
学内プログラム (実習代替)	オリエンテーションの記録について 付属幼稚園における実習オリエンテーション	6月3日/3時間目	前期実習の5ゼミ 222教室
4	実習の持ち物・身だしなみ	6月10日/1時間目	前期実習の5ゼミ 524教室
5	実習の記録	6月17日/1時間目	前期実習の5ゼミ 524教室
6	実習に参加するための感染症対策と対応 誓約書・自己課題	6月23日/3時間目 25日/5時間目	前期実習の5ゼミ
7	実習の記録フィードバック 実習に対する心構え 提出物の確認等	6月24日/1時間目	前期実習の5ゼミ 524教室
7月1日～：最初のゼミの実習開始、その後、16ゼミ中5つのゼミまで前期に3日間の実習 (～7月22日まで)			
8	児童文化財についての学習 実習における保育教材の活用について	Moodleを使用した 代替授業	全てのクラス
9	夏休みの課題について	Moodleを使用した 代替授業	全てのクラス
10	手遊び・絵本の読み聞かせ について	10月14日/3時間目	前期実習の5ゼミ:111教室
学内プログラム (実習代替)	保育教材制作・発表	自宅学習 9月30日/1時間目	前期実習の5ゼミ 体育館
学内プログラム (実習代替)	絵本の読み聞かせ計画	自宅学習	課題提出（10月末提出締め切り）

※1：この授業の他に【事前面談】と【事後面談（成績開示を含む）】を実習センターにて実施する。

※2：各ゼミごとに実習の開始前後に、【実習事前指導】と【実習反省会】を実施する。



資料 3

後期実習11ゼミ（実習1日間）の2020年度 教育実習Ⅰ（事前・事後指導）授業一覧

回	内容	日時	対象・場所・締め切りなど
1	実習の意義と目標 （授業動画視聴+課題）	Moodleを使用した 代替授業（4月20日～）	全てのクラス
2	実習の段階 （授業動画視聴+課題）	Moodleを使用した 代替授業（4月29日～）	全てのクラス
3	教育実習Ⅰ目標と具体的課題	6月3日／1時間目	ABCクラス：524教室 DEFクラス：222教室
4	児童文化財についての学習 実習における保育教材の活用について	Moodleを使用した 代替授業（8月27日～）	全てのクラス
5	夏休みの課題について	Moodleを使用した 代替授業（8月27日～）	全てのクラス
学内プログラム	保育教材制作・発表	自宅学習 後期実習①6ゼミ：9月25日／4時間目 後期実習②5ゼミ：9月25日／1時間目	後期実習の11ゼミ ①：2号館2階、3階の教室 ②：体育館
6	実習の持ち物・身だしなみ COCOAの説明、健康チェック	9月25日／2時間目	後期実習の11ゼミ ①：222教室 ②：131教室
7	実習の記録	後期実習①6ゼミ：9月25日／3時間目 後期実習②5ゼミ：9月25日／2時間目	後期実習の11ゼミ ①：222教室 ②：212教室
8	実習の記録フィードバック 実習に対する心構え 提出物の確認等	後期実習①6ゼミ：9月30日／1時間目 後期実習②5ゼミ：9月30日／1時間目	後期実習の11ゼミ ①：222教室 ②：212教室
9	実習に参加するための感染症対策と対応 誓約書・自己課題	後期実習①6ゼミ：10月14日／3時間目 後期実習②5ゼミ：10月21日／3時間目	後期実習の11ゼミ ①：121教室 ②：131教室
10	手遊び・絵本の読み聞かせ について	後期実習①6ゼミ：10月21日／3時間目 後期実習②5ゼミ：10月21日／4時間目	後期実習の11ゼミ ①：121教室 ②：131教室
学内プログラム	オリエンテーションの記録について 付属幼稚園における実習オリエンテーション	後期実習①6ゼミ：10月21日／4時間目 後期実習②5ゼミ：10月14日／4時間目	後期実習の11ゼミ ①：121～付属幼稚園 ②：131～付属幼稚園 課題提出締め切り（①：10月26日、②10月19日）
学内プログラム	付属幼稚園の映像による学び+記録①	後期実習①6ゼミ：10月14日／4時間目 後期実習②5ゼミ：10月14日／3時間目	後期実習の11ゼミ ①：121教室 ②：131教室
学内プログラム	付属幼稚園の映像による学び+記録② 提出物の確認・実習直前指導	後期実習①6ゼミ：10月29日／5時間目 後期実習②5ゼミ：10月29日／5時間目	後期実習の11ゼミ ①：222教室 ②：131教室
学内プログラム	自己課題の作成	自宅学習	課題提出締め切り （①：10月19日、②10月26日）
11月4日～：6ゼミ目の実習開始、その後、16ゼミ中11ゼミが後期に1日間の実習 （～11月19日まで）			
学内プログラム	付属幼稚園の映像による学び③	11月25日／1時間目	後期実習の11ゼミ ①：222教室 ②：212教室
学内プログラム	付属幼稚園の映像による学び④ +学内プログラム振り返り	12月9日／1時間目	後期実習の11ゼミ ①：222教室 ②：212教室
学内プログラム	手遊びアレンジ作成	自宅学習 ゼミごとの取り組み	動画と資料の提出 （12月10日提出締め切り）
学内プログラム	絵本の読み聞かせ計画	自宅学習	課題提出（12月10日提出締め切り）

※1：この授業の他に【事前面談】と【事後面談（成績開示を含む）】を実習センターにて実施する。

※2：各ゼミごとに実習の開始前後に、【実習事前指導】と【実習反省会】を実施する。